

質疑応答②

植田：ありがとうございました。お二人のご報告をうけて、ひとまず今のところまでで事実確認等をおきたいと思います。まずは登壇者のなかでご質問等あればと思います。いかがでしょうか。

特に出ないようですので、時間が少し押していることもあるので、コメントの方に移りたいと思います。ただ、その前にちょっとだけ補足をさせていただくと、今回、ヒトとモノっていうふうに変化して話を進めてきたんですけども、これまでの経緯を振り返ると、ヒトとモノに加えて、もうひとつ知識っていうものを、実は含めて考えてきたように思います。インフラというものを考えるときに、ヒトとモノと、それからモノを使ったり運用するための知識を加えて、それらが組み合わさった複合体のようなものとしてインフラを考えられないかということも議論してきました。今回、ワークショップのタイトルや趣旨のところでは、ヒトとモノしか出てきませんが、そこは少し広く考えていけたらなと思います。

もうひとつは、最後に森啓輔さんが触れられた Harvey の話ですね。資本の3次循環としての軍事的なものというところですけども、インフラの輸出や開発・研究といった話も、基本的にはこういった枠組みに乗せることもできると思います。ただ一方で、Harvey のような議論の立て方自体が、インフラとか、モノの力とか、ヒト - モノっていうところで考えていくときに、乗り越えるべきひとつの仮想敵として考えられてきたようにも思います。つまり、3次循環というか、Harvey のような議論の立て方で考えていくと、モノというものは、結局は資源や材料に置き換えてしまうことができる。そうすると、資本蓄積のメカニズムのなかでそれが果たす機能の問題に全て還元されてしまう。だが、本当にそれでいいのかっていうのは、この間ずっと考えてきたことでもあったように思います。これに対してどう向き合うのか。接合するのか、切り離して考えるのか、あるいは、といったところは、後半の議論にも関係してくるかと思えます。補足はここで止めて、コメントの方に移らせていただければと思います。

コメントは、目安として20分くらいとしておりますけれども、ここから先は少し自由な形で進めさせていただきたいと思います。コメントはどちらからでもよいかと思いますが、もし、そのままということであれば、三浦さんからお願いできればと思います。